

菅野稻荷の由来

《志 茂》

菅野家の宅地内には、稻荷大明神、菅原天満宮の二神の氏神様が祭られてある。昔、菅野家の先祖は白河領の家臣であったが、武士を捨て、当地の庄屋となった。

日頃は平穏な村であったが、ある年、冷害による大飢饉が襲ったという。村人は食う物もなく、その上、高い年貢米の取り立てによって大騒ぎとなった。

これを見かねた庄屋 右エ門は、城主と数度の話合もつかず、ついに断念して、江戸幕府に訴状を手にして出向した。二ヶ月間の論争となったが、遂に大勝利となった。そのとき、菅野家の棟上に白狐が現れて、大声で三声「コンコン」と鳴いたという。

白狐とは白い猫子のような姿で、稻荷様のお使姫である。勝利を氏神が知らせた鳴声であった。菅野家は庄屋を辞した後も権威に屈せず、厳格な地主であった。長沼の神官磐瀬公は当時飛ぶ鳥落とす勢いであったが、門前で必ず下馬して入ったという。

氏神様には、丸い石数十個が奉納されており、イボ取り神様として知られている。子どもたちが手や足に石イボができ



菅野稻荷